



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：西側諸国との対話外交を目指すロウハーニー新大統領による穏健政策（2）

1. 上海協力機構(SCO)首脳会合への参加と露大統領との会談

就任後初の外遊先としてキルギスのビシュケクを訪問し、上海協力機構（SCO）首脳会合にオブザーバーとして参加する予定のロウハーニー大統領は、9月12日に中国の習国家主席と会談した。

9月13日、SCO首脳会合が実施され、ロウハーニー大統領は、核問題について「平和利用だと保障できる」と述べ、欧米との歩み寄りを探る姿勢を示した。シリア問題に関しては、米国を強く批判した。P5+1とのイラン核開発をめぐる協議の日程は、9月下旬開催予定の第68回国連総会に合わせて決定される可能性があるとして述べた。

同13日にロウハーニー大統領は、SCO首脳会合の傍らでプーチン露大統領と初めての首脳会談に臨み、両者はイラン核問題の解決に向けて協力を深めることで一致した。プーチン大統領府によると、ロウハーニー大統領はイラン核問題について、「国際規模の枠内で早く解決したい」と述べ、P5+1との協議に意欲を示し、プーチン大統領は今後も協力していくと述べた。

2. オバマ米大統領との親書のやり取り

これまでに、米・イラン二国間関係やシリア問題などについて、米国が特使を通じイランにメッセージを送っていると国内外で報じられてきた。イラン・米国両首脳は既に書簡の交換をしており、第68回国連総会に合わせ、1979年のイラン革命とその後の国交断絶以来、初となる接触があるのではないかと注目を集めている。

9月16日付『イーラーン』紙などイラン各紙は、米ABCが15日放送したインタビューにおいて、オバマ米大統領がロウハーニー大統領との間接的接触（書簡）に言及したことについて、トップ・ニュースの一つとして報じた。オバマ大統領は、ロウハーニー大統領に親書を送り、返書を得たが、直接には話していないと述べた。オバマ大統領は、イラン核問題はシリアの化学兵器よりずっと大きな問題であり、新大統領が早急にやり遂げるとは思わないと語った。

同17日、オバマ米大統領は、イランのロウハーニー大統領は米国との対話を希望しているようだと指摘し、それについて確認したいと述べた。スペイン語放送局テレムンドとのインタビューで明らかにした。

同17日、イランのアフハム外務省報道官は、ロウハーニー大統領がオバマ米大統領と親書をやり取りしたことを明らかにした。同報道官によると、オバマ米大統領は、ロウハーニー師の大統領就任に祝意を伝える親書を送付、ロウハーニー大統領は両国間の諸問題について言及した。イラン学生通信（ISNA）によると、アフハム報道官は、ロウハーニー大統領が当選した際、オバマ米大統領から祝福のメッセージを、外交ルートを通じて受け取ったと述べた。

同 20 日付米『ニューヨーク・タイムズ』紙は、イラン当局者の話として、オバマ米大統領がイランのロウハーニー大統領に宛てた書簡で、イランが核問題で国際社会と協力し、核開発が平和目的だと明確にする姿勢を行動で示せば、対イラン制裁の解除を約束すると言及したと報じた。

### 3. 米 NBC テレビのインタビューなどでのロウハーニー大統領の発言

第 68 回国連総会に先んじて、ロウハーニー大統領は米 NBC テレビのインタビュー（9 月 18 日、19 日放送）に応じ、いかなる状況下でもイランが核兵器を含む大量兵器の開発を目指したことはなかったし、今後もないと述べるとともに、イランは「平和的な原子力技術」を求めているに過ぎないという同国の立場を改めて主張、核兵器開発の意思を全面的に否定した。欧米との核問題に関する交渉の全権を最高指導者ハーメネイー師から委任されていると強調した。また、ロウハーニー大統領は、オバマ米大統領がロウハーニー大統領に送った親書に関し、「イランに対して前向きな姿勢を示した」と歓迎、書簡の中で大統領就任への祝意と「いくつかの課題」が提示されていたと明かした。イスラエルについて「好戦的な政策で地域に不安定をもたらした」と批判しながらも「我々は、中東地域が人民の意思により統治されることを望んでいる」とし、「我々はどの国とも戦争は望んでいない。この地域の国々との平和と友好を望んでいる」と述べた。このようにロウハーニー大統領が「イランはいかなる場合でも決して核兵器開発を行わない」と明言し、米欧との関係改善に意欲を示したことを受けて、イランの核開発をめぐる緊張が緩和したことから、翌 19 日は原油先物が下落した。

同 20 日付の米『ワシントン・ポスト』紙にロウハーニー大統領の寄稿が掲載され、「関与をする時間 (Time to engage)」と題し、ロウハーニー大統領は「不俱戴天の敵の時代は過ぎた」と主張した。ローズ米大統領副補佐官（国家安全保障問題担当）は、オバマ大統領が 23、24 日の国連総会行事でイラン問題に言及する、と予告した。

同 22 日、ロウハーニー大統領は、テヘランで行われた軍事パレードで演説し、米欧諸国との関係について「対等な条件と相互の経緯があれば、我々は交渉に入る準備ができている」と述べた。

同 26 日付の米『ワシントン・ポスト』紙によると、イランのロウハーニー大統領は核開発問題について、「早く解決できるほど皆にとっても利益となる」「イランは 3 カ月を望むが 6 カ月でもよい」と述べ、核問題を交渉によって早急に解決したい考えを示した。ロウハーニー大統領はこれまでイランが核兵器を作ることはないと言及しているが、このインタビューでも完全な透明性を確保できると強調している。

（研究員 山崎 和美）